

新会長あいさつ

ごあいさつ

エネルギー・資源研究会会長
 京都大学 名誉教授
 水 科 篤 郎



前田前会長から、バトン・タッチを受けて、私が本研究会の会長をお引受けすることになりました。

前田先生はその誠実なお人柄で、発足当初のエネルギー・資源研究会を、ひとり歩きできるまでに育てて下さいました。私のような菲才の者は到底その任ではございませんが、前田先生のとを ついで、本会を学校に入学するくらいまで育てようと存じております。会員諸氏の御指導と御鞭撻を御願い申し上げます。

前田先生と私とは共に化学工学を専攻するものですが、前田先生は大阪の高校から仙台の大学へ私は仙台の高校から京都の大学へと反対の方向を辿り、それぞれ化学工学の道へ入ったものです。化学工学協会の会長も前田先生の次を私がやりましたし、昔から親しくしていただいている仲なので、本会のバトン・タッチもスムーズに行くものと信じております。

省みますと本会は発足後3年目で正会員数1,530名の会に発展して参りました。これはひとえに前田会長と、総務・編集・企画の委員並びに全会員諸氏及び事務局の御努力の賜であります。エネルギー・資源問題が我が国にとって、いかに重要であるかの現われとも云えましょう。

本会の設立趣意書にも申し述べてありますように、資源エネルギーも、ごく僅かしかなくにもかかわらず、それらを大量に消費している日本にとって、エネルギー・資源の問題は益々重要度を増して参ります。本研究会のように産・官・学が一体となって問題解決を計ろうとする努力は益々求められるようになると信じます。前田先生も云っておられるように、会員が自由に率直な意見を交換しあって行くことが、最も大切であると思ひます。いたずらに巨大な組織となって、窮屈な規則でしぼり、形式主義におちいるより、自由に、すべてをさらけ出して、正直に討論する場を提供することが本会の役目であると思ひます。

と申しましても、もう少し会員数が増えないと、財政的に不安定ですし、またエネルギー・資源の問題は広い分野に関連のあることでもありますので、できるだけ広い分野の方々に入会していただきたいと存じます。私の会長としての当面の仕事の目標を、この会員増加に定め、努力したいと考えておりますので、会員諸氏の御協力をお願い申し上げます。

今年のように石油の値段が少し下ると、ややもするとエネルギー問題への関心が減るのではないかと危惧するむきもあります。しかし、むしろこの天の助けにより日本の経済力を立てなおし、その地力を使って、更に一層エネルギー・資源問題を研究して、将来に備えることが肝要であります。

これをもちまして会長就任のごあいさつと致します。